

多摩市立図書館本館再整備基本計画（素案）に対する図書館協議会委員の意見

【意見】

本素案は、多摩市の図書館の沿革や現状、多摩市立図書館基本構想の理念ならびに同構想のフレームや与件等の変化をも十分に踏まえつつ、中央図書館という位置づけで再整備される多摩市立図書館本館について、その使命、目指す図書館像、その機能とサービス内容、資料計画、敷地・施設計画、その運営と管理システム等が総合的に、且つ多角的に緻密に具体的に検討された結果が纏められており、基本的にこの素案の内容に共感しているところである。とりわけ、中央図書館のサービス機能面として、これまで利用できなかった国立国会図書館のデジタルコレクション等の資料が地元の図書館でも検索・入手できることを言及しており、利用者の利便性が高まることには私個人としても大いに期待を膨らませている。

そのような前提のうえで、次の2つの点が、本素案の中に強調されたり、あるいは付加されたりするかたちで記述されるとさらに良いのではないかと考えている。

- (1) 今後、地域課題として想定された課題解決型支援として、強調したり、付加したりすると思う事項

本素案の「第二章“知の地域創造”のための図書館」の中の「2—③ “市民一人ひとりから支える”として〈課題解決型の支援をめざす〉」という図書館の機能コンセプト記述中において、2005（平成17）年の文科省研究会において想定された6つの「地域課題解決支援および情報提供」が紹介されている（素案15頁）。これら6つの「地域課題解決支援および情報提供」は、頗るポイントを押さえた指摘であるため、大いに理解できる場所であり、いくつかの先進的図書館のコンセプトの中でもその機能コンセプトとして取り上げられていることを確認している。

しかし、全国、あるいは多摩市においてもそれらの「地域課題解決支援、および情報提供」の中にはその今日的意義を別の角度で強調すべきものがあるし、文科省による6つの「地域課題解決支援、および情報提供」以外に付加すべき「地域課題解決支援」があると思う。

① 子どもの読書力向上への支援

その1つは、「地域の教育向上支援」の中の「学校教育支援（子育て支援を含む）」（6つの「地域課題解決支援および情報提供」の1つ）の意義として、強調すべき事項である。それは、デジタル技術の急激な進歩によるネット社会の到来によって子どもたちの生活環境が大きく変化していく中で、求められている「子どもの読書力向上への支援」である。今のような変化の時代であるからこそ、小学生に対する読み聞かせやストーリーテリング、中・高校生に対する読書活動の推進指導・支援等読書力の向上支援が非常に重要となる意義が明らかに存在していると思う。この読書力向上支援の重要性については、新井紀子氏の『AI vs 教科書が読めない子どもたち』（2018年、東洋経済新報社）や米国における機会格差の拡大を扱った、ロバート・D・パットナム ハーバード大学教授による『われらの子ども』（2017年、創元社、柴内康文訳）の中でも言及されている。また、読み聞かせ等の図書館に対するニーズの高さについては、多摩市教育委員会『第三次多摩市子どもの読書活動推進計画』（2018年、多摩市教育委員会教育部図書館）の中のアンケート結果にも表れているとおりである。

② 中長期の地域社会をめぐるリスクに備えた克服すべき普遍的課題についての情報提供

もう 1 つは、「地域課題の解決支援」の中に付加される事項として、少子化による急速な人口減少、高齢化の進行に伴って想定される、将来にわたる医療・介護や子育て・教育の姿、孤立化の進行状況、地域や地域活動を支える基盤低下の状況、財政・経済・労働、インフラの姿、産業・テクノロジーの状況、地域における市民相互の助け合い、繋がり等の状況を横断的、網羅的に収集・整理された文献、資料を市民に対して提供していくことを記述することが挙げられる。こうした情報提供は、地域の市民一人ひとりが自分の生活する地域社会の状況を理解し、自己啓発をはかり、社会参加をしていくことに資するうえで必要不可欠である。

(2) 他の社会教育機関等との連携・協働とアウトリーチ活動

多摩市立図書館本館が、中央図書館として拠点図書館や地域図書館とは勿論のこと、公民館等の他の社会教育機関や複合文化施設等との緊密な連携や協働により、さまざまな催しを企画・実施すると共に、図書館や他の社会教育機関等と連携しての学校やコミュニティセンター等へのアウトリーチ活動を計画的に、具体的に展開していくことによって、有効で、効率的な魅力ある図書館運営を追求していくことを素案に記述していくことも必要であると思う。

【意見】

基本計画（素案）を拝見しました。多様な視点から、多くの機能、目標が盛り込まれていて、今から楽しみです。その分、図書館のみなさまのご負担も大変かとは思いますが、逆にせつかくの機会ですので、効率化できるところや高機能化できるところは実現して、業務の負担軽減と高度化につなげられるとよいですね。

いくつか気づいた点がありましたので、記してお送りします。検討の材料に加えていただけたら幸いです。

3-④-4.部門別の諸機能の内訳

p.32 (1) ① 一般成人分野

書架の配置について、「圧迫感なく、サービスの目も届きつつ」に賛同します。

オープン（開放的）な空間は創造的な雰囲気をもうみだすと思います。書架の高さ、配置に配慮いただけたらと考えます。

p.34 ⑦ 子どもサービス分野

ある程度の音が許容できる空間設計、配置を望みます（子どもにしーつと言わなくてはならないので、図書館に来づらいという利用者の声をよく耳にするかと思えます）。

また、図書資料だけでなく、多様な資料（知育教材やおもちゃなど）の収集、提供も考えてはいかがでしょうか。

⑧ YA（ヤングアダルト）ティーンズ分野

「コミュニケーションの場、友達づきあいの場、たまり場」とありますが、この世代特有の心理的な要素も検討に加えていただけたらと思います（専門家のご意見を伺いたいところです）。

例えば、隠れ家的な空間（独りになれる場所）もあえて用意してもよいように思います。

⑨ 情報コーナー

PCを20台程度備えた、PCを用いた講習会が開催できるような空間（普段は自由に利用してもらいます）も検討いただきたいです。

今後、ますます「学ぶ」機会が増え、それを提供できる場が必要と考えるからです。

p.35 ⑫ 開架室内サービスデスク周り

レファレンスデスクは、これからよりプライバシーに関わる問題を扱うことが予想されますので、ある一定程度の高さの衝立や囲いのようなもので仕切られた場所があってもよいかもしれません。

p.36 (2)① フリースペース

ラーニングcommonsに「大テーブル」を配置するとありますが、画一的でなく、多様な利用に応えられるような家具の選定や配置、しつらえを期待します。

また、「面積の目安」にも記されていますが、こうしたスペースには準備室や収納室が欠かせません。必要十分な面積の部屋の確保を希望します。

p.38 (4) 運営と管理部門

災害時の対応はどのようになっているのでしょうか。

用意はなさっているかとは思いますが、備蓄食料やその他の品物を備える倉庫、場合によってはスタッフの方が長期間とどまることも考えられるのでそのための設備（シャワールーム）なども考えてもよいかもしれません。